

(株)苫東 第29回経営諮問委員会議事録

1 日 時 令和8年5月19日(火) 13時00分～14時15分

2 場 所 ホテルポールスター札幌 4階「ラベンダー」

3 出 席 9名

4 議 題

- (1) 最近の主な動き
- (2) 苫東地域の開発状況
- (3) 最近のGX・DXプロジェクト動向について
- (4) 令和7年度経営概況について(令和7年度決算見込み、株主配当(案))
- (5) 令和8年度事業計画等について
- (6) 自然環境の保全と活用の推進
- (7) 第9次中期目標の達成状況
- (8) 第10次中期目標(案)の概要

5 委員からの主な意見

□苫東に立地してくる先端的な事業とラピダスのシナジーをどのように描き出せるかが重要となってくる。教育基盤、文化力、食、スポーツ産業等を含めたアメニティを地域に取り込み、付加価値を創出することが大きな成功要件になる。

□投資と配当のバランスを持って、機会損失とならないようタイミング良く計画的に事業を進めていくことが重要である。苫東が単純に工業地帯ではないことは、第10次中期目標に記載されている通りであり、これをしっかり推進していくためには、広報的な戦略も必要である。

□道内においては、GX/AI 金融・資産運用特区や北海道バレービジョンがスタートしており、北海道の産業構造が大きく変わる機会となっている。千歳と苫小牧は戦略拠点になり得るわけであり、戦略拠点をポテンシャルに終わらせないためには、第10次中期目標の「造成計画と連動した戦略的な営業活動の推進」が極めて重要となる。

□苫東で「ものづくり」をすれば、黙ってでも自然エネルギーが手に入るというアドバンテージを活かし、苫小牧のダブルポートシティとしての強みや物流の利便性もPRすることで、研究開発機関や人材育成ができるような拠点を目指すなど、人が集まるエリアとなしてほしい。

□今後は、苫東にどのような付加価値があるのかを準備していく必要がある。例えば、教育機関や研究機関との連携で新しい物をつくり出す機運を醸成していくことが必要ではないか。
日本では大きな造成はないので、町を一つつくるようなイメージでグランドデザインを広めてもいいと思う。また、北海道民にとって苫東がどうあるべきかというビジョンを示すことで、苫東の活性化や発展に繋がると思う。

□第9期北海道総合開発計画を踏まえ、苫小牧、千歳エリアをゼロカーボン北海道の実現、成長産業の形成という中核的な地域と位置付けており、苫東にはGX、データセンター、半導体関連産業の集積を通じて、北海道の成長と我が国の経済安全保障を支える中心的な役割を担って頂きたい。

□経済産業省のGX 戦略地域制度に関して、全国から公募があった中で、北海道、苫小牧市が審査を通過し、有望地域に選定された。選定されると電力送電網の先行整備や脱炭素電源整備のための補助金等のメリットがあるので、最終認定に至るように苫小牧市と協力しながら取り組んでいきたい。

□GX 関連の工事には、数千人から1万人の工事関係者が関わっており、宿舎や交通渋滞の緩和など、予想される課題に対応できるように検討している。
また、シティプロモーションに取り組んでいるが、GX・DXの動きそのものが町の魅力に繋がっており、人材確保や人材育成も考えなければならない。

□全国を見渡しても水、エネルギー、物流が整備された広い土地は非常に価値が高まっている。苫東は広大な土地を整備できるので、関係各社と連携して苫東の魅力を広め、造成を進めて頂きたい。
第10次中期目標の「自然と共生した先進的なGX産業エリアの形成」に関して、特に「自然と共生した」取り組みは重要であり、次世代のPV 拠点となるプロジェクトと一緒に進めていきたい。

以 上